

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25244022

研究課題名(和文) やさしい日本語を用いた言語的少数者に対する言語保障の枠組み策定のための総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study in deciding the framework to guarantee the linguistic rights of linguistic minorities using Yasashii-Nihongo (Plain Japanese)

研究代表者

庵 功雄 (IORI, Isao)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号：70283702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は次の3点に要約される。第1点は公的文書の やさしい日本語 への書き換えに関わる諸課題の解決、第2点は外国にルーツを持つ生徒に対する日本語教育に関する実証的な取り組みであり、第3点は各種メディアを通じた やさしい日本語 の理念の普及活動である。第1点に関しては、横浜市との協働のもと、行政専門用語562語についての「定訳」を作成し、書き換えに際し有用な各種ツールとともにインターネット上で公開した。第2点に関しては、新しい文法シラバスを公刊する一方、JSL生徒向け総合日本語教科書の試行版を完成した。第3点に関しては、書籍、講演等を通して やさしい日本語 に関する理念の普及に努めた。

研究成果の概要(英文)：The achievements of this study are summarized in three points. The first one is the solution of problems concerning the rewriting of official documents in Yasashii-Nihongo (Plain Japanese). The second is an empirical research on teaching Japanese to pupils with foreign roots. And the third is activities to spread the concepts of Yasashii-Nihongo through several media. For the first, we prepared, through the collaboration with Yokohama-City, fixed "official translations" of 562 words in Yasashii-Nihongo used mostly in bureaucratic contexts and published them on the internet along with several useful tools for rewriting official documents in Yasashii-Nihongo. For the second, we published a new grammatical syllabus and made a trial version of a collection of integral Japanese textbooks for the pupils. And for the third, we made a best effort to make the concepts of Yasashii-Nihongo known in the Japanese society by publishing books and articles, giving lectures and holding workshops.

研究分野：日本語教育学

キーワード：やさしい日本語 言語的少数者 公的文書の書き換え 自治体との協働 外国にルーツを持つ子ども
言語政策 ろう児 文法シラバス

1. 研究開始当初の背景

(1) 前科研(課題番号 22242013。研究代表者 庵功雄)において、公的文書の書き換えに関する言語的課題のかなりの部分を解決したが、公的文書の発信者である自治体との協働が課題として残された。

(2) また、前科研では、「やさしい日本語」の対象者を主に成人の定住外国人に限定して考察を進めたが、言語政策的観点からは彼(女)らの子どもたちに対する言語保障も視野に入れることが必要である。

(3) 前科研の研究を進める中で、「やさしい日本語」が障害者や高齢者などに対する情報提供の手段としても重要であることが明らかになってきていた。

(4) 以上の状況を踏まえ、外国人の子どもたちや障害者などの言語的少数者の言語保障のための枠組み策定を、「やさしい日本語」の理念拡張を通して行うことが喫緊の課題である。

2. 研究の目的

(1) 自治体との協働を通して、公的文書の書き換えに関する実証的な成果を挙げる。

(2) 定住外国人の子どもたちに対する日本語教育に具体的に資する教材の開発を目指す。

(3) ろう教育の実践者との協働により、ろう児に対する日本語教育の問題点を包括的に考察し、その解決策を提案する。

(4) (2)(3)を行うための言語的方策の1つとして、初級から上級までを見据えた新しい文法シラバスを策定する。

(5) 前科研以降一層多角化する「やさしい日本語」の理念を普及するために、執筆、学会発表や講演、ワークショップ等を行う。

3. 研究の方法

(1) 横浜市との協働により、公的文書の書き換えに関する実証的成果を挙げた。公的文書の書き換えに際し問題となる点をまとめた。

公的文書で主に使われる行政特徴語 562 語の「定訳」を決定した。 はインターネットの横浜市のサイト上で公開されている。

(<http://www.city.yokohama.lg.jp/lang/ej/01.standard.all.pdf>) 横浜市の職員向けに「書き換え支援システム横浜版」を作成した。 の一般公開版を本研究のホームページ上で公開した。

(2) 定住外国人の子どもである中学生を対象とする総合日本語教科書(全3冊)のうち、1冊の試行版を完成した。

(3) ろう児に対する日本語教育における問題点を考察するため、明晴学園の全面的な協力のもと、ろう児に対する実験を行い、格助詞の導入において、留学生教育におけるのと同様の方法を用いることが可能であることを示した(学会発表、雑誌論文)。

(4) 学校型日本語教育を対象とし、初級から

上級までを一貫させた新しい文法シラバスを策定し、公刊した(雑誌論文)。

(5) 「やさしい日本語」の理念に関する論文を発表する(雑誌論文、学会発表)一方、研究書および一般向けの書籍も上梓した(図書)。

4. 研究成果

(1) 前科研の課題であった自治体との協働を、横浜市の協力を得て実現した。それに基づき、横浜市の職員、同市在住の外国人市民等との話し合いの成果を踏まえた、公的文書の書き換えに関する冊子の作成に全面的に協力した。また、これらの成果を踏まえた論文および一般書を公刊した(雑誌論文、図書)。

公的文書の書き換えに際して有益な各種ツールを開発し、本研究のホームページ上で公開した(学会発表)。これらと平行して、自然言語処理的観点からの「やさしい日本語」への自動換言化の研究も継続して行った(雑誌論文、学会発表)。

(2) 定住外国人の中学生対象の総合日本語教科書全3冊のうち、初級に当たる第1冊の試行版を完成し、横浜市内の中学校などでその試用を行った。

(3) ろう児に対する日本語教育の問題点を包括的に考察し、その解決を図るため、日本手話を第一言語としてろう児の教育を行っている明晴学園の全面的な協力を得、同校教諭の岡(研究協力者)との協働のもと、深層格の理解に関する調査を同校の小学部・中学部の児童生徒に対して行い、深層格の理解が正確に行われていることを確認した(雑誌論文、学会発表)。これにより、格助詞の導入に関して、留学生日本語教育の方法を適用することが可能であることが明らかになった。

(4) 「やさしい日本語」の理念を、成人の定住外国人からその年少の子どもたちや、ろう児に対する日本語教育に拡張する中で、現在の日本国内の日本語教育を取り巻く状況を考慮すると、(当初は大きく異なるものと考えられていた)学校型日本語教育と地域型日本語教育の間に多くの共通点が見出されることが明らかになってきた(雑誌論文②、学会発表)。これを受けて、前科研で地域型日本語教育用に策定した初級文法シラバスを学校型日本語教育用に修正し、さらに、コーパス分析を加えた形で、学校型日本語教育における中上級文法シラバスを策定した(雑誌論文)。

これにより、学校型日本語教育における初級から上級までを見据えた文法シラバスが完成した。さらに、非漢字圏学習者が急増している現在の日本国内の日本語教育の現状に鑑み、漢字教育の抜本的改変を念頭に置いた漢字シラバス策定のための基本的作業に着手した(雑誌論文)。

(5) 前科研において本格的に研究を開始した「やさしい日本語」だが、本研究において、その射程が、成人の定住外国人から、その子どもたちや障害者などの言語的少数者一般へ

と拡張された(雑誌論文、)さらに、「やさしい日本語」の概念が日本語母語話者にとっても有用であることも示した(図書、雑誌論文、学会発表)で得られた知見を書籍、雑誌論文などの形で公刊した(図書、雑誌論文⑦⑭⑳)。特に、図書は影響力の大きい活字媒体で発表したこともあり、大きな反響を呼んでいる。これらの活動に加え、前科研に引き続き、日本各地での講演、ワークショップ活動なども継続して行い、「やさしい日本語」の理念普及に努めた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計33件)

打浪文字・岩田一成(他4名) 知的障害者向け「わかりやすい」情報提供と外国人向け「やさしい日本語」の相違 「ステージ」と「NEWSWEB EASY」の語彙に着目した比較分析から、20巻1号、査読有、2016、pp.29-41、<https://doi.org/10.19024/jajls.20.1.29>

庵功雄・早川杏子、JSL 生徒対象の漢字教育見直しに関する基礎的研究 理科教科書の音訓率を中心に、人文・自然研究、査読無、11号、2016、pp.4-19、<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/28458>

Isao Iori & Norie Oka, A Preliminary study on teaching written Japanese to deaf children, *Hitotsubashi Journal Arts and Sciences*, 査読無、Vol.57 No.1、2016、pp.21-28、<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/28243>

庵功雄、日本語教育と日本語のわかりやすさ、野村雅昭・木村義之編『わかりやすい日本語』、くろしお出版(図書所収)、査読有、2016、pp.153-166

庵功雄、「産出のための文法」から見た「は」と「が」、庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己編『日本語文法研究のフロンティア』、くろしお出版(図書所収)、査読有、2016、pp.289-306

庵功雄、外国人だけでなく日本人のコミュニケーション力も高めるやさしい日本語、広報、査読有、755巻、2016、pp.15-17

Isao Iori, The Enterprise of *Yasashii Nihongo*: For a Sustainable Multicultural Society in Japan, 人文・自然研究、査読無、10号、2016、pp.4-19、<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/27835>

庵功雄、外国人にとっての障壁としての漢字とその対策 日本語教育の立場から、要約筆記問題研究、査読無、27号、2016、pp.41-46

八木真生・川村よし子、サ変名詞+接尾辞『者』をやさしい日本語へ書き換える 形態素 N-gram を利用した自動処理の検証、日本語教育方法研究会誌、査読無、22巻2号、2015、

pp.62-63

庵功雄、「産出のための文法」に関する一考察 「100%を目指さない文法」再考、阿部二郎・庵功雄・佐藤琢三編『文法・談話研究と日本語教育の接点』、くろしお出版(図書所収)、査読有、2015、pp.19-32

庵功雄、日本語学的知見から見た中上級シラバス、庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』、くろしお出版(図書所収)、査読有、2015、pp.15-46

庵功雄、日本語学的知見から見た初級シラバス、庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』、くろしお出版(図書所収)、査読有、2015、pp.1-14

庵功雄、「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義 「やさしい日本語」は外国人のためだけのものではない、一橋大学国際教育センター紀要、査読有、6号、2015、pp.3-15、<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/27456>

庵功雄、やさしい日本語研究のこれまでとこれから、ことばと文字、査読有、4号、2015、pp.4-13

金庭久美子・川村よし子、非漢字圏学習者に対するやさしい日本語による読解支援のあり方、日本語教育方法研究会誌、査読無、21巻2号、2014、pp.10-11

庵功雄、言語的マイノリティに対する言語上の保障と「やさしい日本語」、ことばと文字、査読有、2号、2014、pp.103-109

森篤嗣、意味判別における文法記述効果の計量化 ナガラ節の意味判別を例として、日本語文法、査読有、14巻2号、2014、pp.84-100

梶原智之・山本和英、語釈文を用いた小学生のための語彙平易化、情報処理学会論文誌、査読有、Vol.56 No.3、2014、pp.383-392

岩田一成、看護師国家試験対策と「やさしい日本語」、日本語教育、査読有、158号、2014、pp.36-48

岩田一成、公的文書をわかりやすくするために、日本語学、査読有、33巻11号、2014、pp.44-54

①庵功雄、これからの日本語教育において求められること、ことばと文字、査読有、1号、2014、pp.86-94

②庵功雄、「やさしい日本語」研究の現状と今後の課題、一橋日本語教育研究、査読無、2号、2014、pp.1-12

[学会発表](計16件)

庵功雄、大学における英語中心主義を生き延びるための留学生日本語教育と<やさしい日本語>、言語文化教育研究会、2017

Tomoyuki Kajiwara and Kazuhide Yamamoto, Evaluation Dataset and System for Japanese Lexical Simplification, the ACL-IJCNLP 2015 Student Research Workshop, 2015

Shunsuke Takeno and Kazuhide Yamamoto,

Japanese Sentence Compression using Simple English Wikipedia, the 19th International Conference on Asian Language Processing, 2015

岩田一成・森篤嗣・松下達彦、『やさしにちエッカー』 公的文書の難易度を指標化するシステムの開発 日本語教育学会、2015

岡典栄・庵功雄、ろう児に対する書記日本語教育のための予備的考察 「9歳の壁」を越えるために、日本語教育学会、2015

宇佐美洋、『外国人にわかりやすい文書』を書くための配慮 「やさしい日本語」の作成ルール」の効果とその活用、カナダ日本語教育振興会、2014

梶原智之・山本和英、日本語の語彙平易化システムの構築、言語情報処理学会、2014

森篤嗣、小学校国語教科書に見られる情報保障教育の課題、日本言語政策学会、2014

Tatsuhiko Matsushita、How is the relationship between vocabulary knowledge and reading comprehension?、AILA、2014

柳田直美、非母語話者は母語話者の「説明」をどのように評価するか、日本語教育学会、2014

〔図書〕(計9件)

岩田一成、大修館書店、読み手に伝わる公用文 やさしい日本語 の視点から、2016、174

庵功雄、岩波書店、やさしい日本語 多文化共生社会へ、2016、238

柳田直美、ココ出版、接触場面における母語話者のコミュニケーション方略、2015、213

庵功雄、くろしお出版、日本語教育、日本語学の「次の一手」、2013、206 ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi/>

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

庵 功雄 (IORI, Isao)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号：70283702

(2) 研究分担者

イ・ヨンスク (LEE, Yeounsuk)

一橋大学・大学院言語社会研究科・教授

研究者番号：00232108

松下 達彦 (MATSUSHITA, Tatsuhiko)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：00255259

森 篤嗣 (MORI, Atsushi)

帝塚山大学・現代生活学部・准教授

研究者番号：30407209

川村 よし子 (KAWAMURA, Yoshiko)

東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40214704

山本 和英 (YAMAMOTO, Kazuhide)

長岡技術科学大学・工学研究科・准教授

研究者番号：40359708

志村 ゆかり (SHIMURA, Yukari)

東京経済大学・経営学部・特任講師

研究者番号：50748738

早川 杏子 (HAYAKAWA, Kyouko)

関西学院大学・付置研究所・講師

研究者番号：80723543

志賀 玲子 (SHIGA, Reiko)

一橋大学・大学院国際企業戦略研究科・特任講師

研究者番号：30767695

建石 始 (TATEISHI, Hazime)

神戸女学院大学・文学部・教授

研究者番号：70469568

中石 ゆうこ (NAKAISHI, Yuuko)

県立広島大学・公私立大学の部局等 (広島キャンパス)・助教

研究者番号：20535885

岩田 一成 (IWATA, Kazunari)

聖心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：70509067

柳田 直美 (YANAGIDA, Naomi)

一橋大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：60635291

湯川 高志 (YUKAWA, Takashi)

長岡技術科学大学・工学研究科・教授

研究者番号：70345536

三上 喜貴 (MIKAMI, Yoshiki)

長岡技術科学大学・工学研究科・教授

研究者番号：70293264

金田 智子 (KANEDA, Tomoko)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：50304457

宇佐美 洋 (Usami, Yo)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：40293245

松田 真希子 (Matsuda, Makiko)
金沢大学・留学生センター・准教授
研究者番号：10361932

(4)研究協力者

岡 典栄 (OKA, Norie)
明晴学園・教諭